

## Ecola

イ・コ・ラ

No. 1

《発行》イコラ編集局（連絡先）植野比呂美

**編集方針**：Ecola（イコラ）は、分会が発行する公式ニュースレターです。しかし、編集方針としては、役員を含めた会員有志が中心となり編集し、分会としての公式の見解のみを伝えるのではなく、会員の**自由な議論**、交流の場としたいと考えます。

## 分会ニュースEcola 編集局スタート!!

このたび、分会の会員有志のもので、ニュースレターEcola（イコラ）を発行することになりました。どんなものにしていくかは、これから、まだ**手探り**で考えていかないといけないのですが、とにかく、「まず、やってみよう」ということで、第1回ニュース発行です。

「紀北分会って、勉強会とか、バス旅行とかやってるけど、なかなかそういった行事に参加できないし、年一回の総会にもあまり出られないから、その**活動の中身**よくわからないなあ」なんて思ってる人、けっこういるんじゃないでしょうか？ Ecolaでは、会のいろいろな活動の中身について報告したり、話し合ったりしたいと思います。さらに、日々の生活のなかでの迷いや悩みなども自由に出し合える場にできれば、と考えています。みなさん、意見、感想など、何でもいいからどんどん寄せて下さいね。

では、まず、**津田新会長**のごあいさつです。どうぞ！！



この度、本年度より自閉症協会和歌山県支部紀北分会の会長を拝命いたしました津田でございます。歴史的にも試行錯誤の連続であった自閉症に対する考え方に全社会的に正していく必要があります。まわりの支えが不可欠な極めて特殊な病態に正面から向き合い、辛苦を共にし、勉強し、体験し、喜びを分かち合い、会員であることに大なるメリットがあるという会に是非ともしていきたくと存じます故、よろしく願い申し上げます。

過日、平成13年度の総会がおこなわれ、そのなかで役員改正がありました。（総会資料参照）総会は、新旧役員中心に、とどこおりなく進められ、津田新会長の就任の挨拶によって**ググツ**と気が引き締まる中、無事終わりました。花井前会長、旧役員、班長の皆さん、長い間ごくろうさまでした。改めまして、新役員、班長の皆さん、よろしくお願いいたします。



## 講演会よかったよ！

総会の後、今年も講師をお迎えして、講演会をおこないました。今年の講師は、和太教育学部附属養護学校の岡潔先生でした。「自閉症の理解と支援 ～安定した青年期・成人期をめざして～」というテーマで、いろいろ具体的にお話ししていただきました。また、質疑応答では、今回も多く質問が出されました。簡単にご紹介します。

**Q：voca やスケジュール表を用いると、親は「言葉がでなくなるのでは」という不安をもっているが？（指導者から）**

（答）voca は絵カードより音（音声）がでる為、子どもが振り向きやすいなど伝達性が高い。また自己選択が出来る面でも良い。言葉がくりかえされる分、人に向かうかもついてくる。むしろ言葉が増えたり、発音が良くなったといった成果が上がっている。今は(voca は)高値だが。今後、携帯電話にそういう機能がついてくればと望む。また絵カードについては、文字の読めない子に対しても文字を入れている。覚えるきっかけにもなりうる。

**Q：感覚過敏（聴覚過敏）の慣らし方について詳しく教えてください。**

（答）例えば、カセットから流れるBGMがだめな子の例では、好きな遊びのときにかけてみた。好きなことの方が優位になっているときにBGMをながすことで慣らしていった。ただし、ストレスがたまっている時にはダメ。こだわりについては、安定をもとめているときに発生する。（自分を落ち着かせる手段として）

**Q：わざと怒られるようにタンスに乗る。「ダメダメ」などと言うが…？（5才児父）**

（答）注目してもらおうとしているようなので、それに代わる行動を見つけてあげればどうか。違う方法での関わり方を見つける。

**Q：触覚過敏について聞きたい。くすぐったがるときとそうでないときがあるが…？**

（答）接触面を減らすためにつまさき歩きをすることもある。

感覚統合療法などもあるので、作業療法士に相談要。過敏な部分だけをマッサージ等すると、余計ストレスをためる場合があるので、遊びとして床に豆、スライム、氷の上を歩かせるなど。

**Q：偏食が激しい。今は学校で無理に食べさせられているが、家では食べない。（小1母）**

（答）給食指導で一番多い問題。家庭でなら、調理を工夫することで食べさせられる。嫌いな物は本人が「減らしてください」などと言える様になれば。

## 会場がいっぱいになりました！



また、今回は、会員以外の方も多く（21名）見られました。若いお母さんやお父さん、保育や教育に携わっている方など、**いろいろな立場**を越え、情報を模索している人がたくさんいるんだということを感じさせられ、改めて、「**支えあう**」という意味合いでの会の役割について、考えてしまいました。講演会の後出していたいただいた感想をいくつか紹介します。（会員、非会員おりにまぜています）

少し自閉症が入っているというお子さんを4月より保育所で預かりしています。先生のお話にあつたように、散歩に出ても一番前を歩かないと大声で暴れ出します。今はその子の思い通りに過ごしているのですが、徐々に立ち直る力も大切なことなので、頑張ってみようと思います。ルールの必要性和、自己の感情、選択とを**区別**させていくことが大変難しいですが、幾分かこの講演で勉強させていただきました。（非会員）

高機能自閉症の場合、**公的な支援**はほとんど受けられません。かかわる人の共通理解を得るという面でも非常に誤解を受けやすく、卒業後、就職などの面でも不安があります。現在は、小学校の少人数学級に在籍していますが、中学、高校への進学を考えると悩んでしまいます。（中略）関わる人が増えるに連れて、共通理解をしてもらうのはますます難しくなると思います。また、本人に**告知**すべきかどうか悩みます。（非会員）

今日の講師の先生は、現役の先生なので、とても良かった。これからもわかりやすい、熱心な先生の勉強会を希望します。**保育**もとてもありがたいです。（会員）

先生が**現場**で体験されたことを具体的に話され、我々自閉症児を持つ親が日常体験していることに大変参考になりました。また、いただいた冊子には、自閉症児に接する方法についても具体的に表現され、今後の生活にも参考にさせていただきます。（会員）

とてもわかりやすく、自閉症について、また、かわり方など具体的に話がきけ、よくわかりました。もっと、自閉症への理解を深めていかなければいけないと感じると共に、その子ども達と関わるすべての者がもっとその子を理解し、サポートしていける**システム**を確立していく必要があると感じました。（たぶん非会員）

先生の話がとても分かりやすく、プリントに書いてあつたことが、全て**当てはまります**。子どもに対しての理解、コミュニケーションの取り方もすごく参考になりました。今日来られなかった人にも聞いてほしかったと思います。（会員）

今日は、わかりやすい言葉で自閉症のことを伝えていただき、ありがとうございました。今日のお話を聞きながら、明日からの自分の働く職場で子ども達をゆつくりと見て、**伝える方法**を見つけたしていきたいと思いました。（非会員）

4歳の自閉症の息子がいます。3歳の頃より、言葉が出て、今ではだいたいの要求は言葉で表現してくれ、助かっていますが、逆に要求が通らないと、泣いて自分の要求を通そうとすることが強くなってきました。（中略）今、保育所に行っているのですが、少しずつ友達と遊びたいという気持ちからか、友達の遊びのじゃまをしては、先生や友達が怒ったりするのがうれしいようで、しつこくやめようとしません。**どうしたものか**と思います。今日はありがとうございました。勉強になりました。（非会員）

## 保育室のようす



今回の総会・講演会は、日曜日ということで、去年同様、**ボランティア**による保育を実施しました。でも、今年の保育、ちょっと違いました。何が違うかということ、去年の講演会の講師をしてくださった**あの辻幸代先生**が、保育部門の担当をしてくださったのです。ボランティアで、「ただ、その時間子どもを預かる」という託児本来の意味合いを越えた形で、子ども達にとって、「何らかの有意義な経験となるように」という目的で取り組んでくださいました。

ボランティアの方々は、和大的**学生**さんたち、辻先生と**ご主人さま**合わせて9人、対する子ども達は、当初の予定より当日かなり増えて、11人（うち、兄弟2人）でした。学生さん達は、数日前に、辻先生による**事前学習**を受け、子ども達への理解やコミュニケーションの取り方などをより深め、当日の打ち合わせもバッチリという状態で臨んでくれました。人数的に厳しかったのですが、先生が「大原則」と考えていた**マン・ツー・マン**のかたちで、何とか通すことができました。（兄弟2人は、それぞれの兄弟のところと一緒にいたり、余裕のある者がお相手したりでしたが、かなり楽しそうでした。）

その一端をご紹介します。



子どもたち、年齢的には、1歳から17歳まで、興味も行動もマチマチ、といった中、それぞれ有意義に楽しんでもらおうと、大きな部屋の中に、**5つのコーナー**が用意されました。書き描きコーナー、PCオーディオコーナー、ボールプール、組立コーナー、読書コーナーです。子ども達は、それぞれ自分の好きなコーナーでボランティアさんといっしょに自由に遊んだり、また、近くの公園へ**散歩**に行ったりしました。また、別室で、簡単な**クッキング**（フルーチェ作り）したり、おやつを食べたりする時間もありました。辻先生手作りの、とてもわかりやすい**ビンゴ**ゲームを楽しむ時間もありました。

部屋は、とてもひろ～いお座敷ホールでしたし、子どもたちもボランティアさん達ものびのびと遊べたのではないかな、と思います。空間的にも、時間的にも**構造化**された環境の中、みんなそれぞれ落ち着いてご機嫌なようすでした。ただ、終わりの時間が近づいてくるころ、おなががすいてきたこともあり、何となく各コーナーが入り乱れてきたこともあり、ちよつとパニックを起こしかけたり、騒がしくなることもありました。（辻先生曰く、「コーナーを仕切る壁があればねえ・。場所が入り乱れてくると、気持ちも**入り乱れてくる**からねえ。」）

たった数時間、また、慣れない場所で、どんなタイプの子どもたちにとっても有意義な時間を過ごしてもらって、一体どれだけ可能なのか、今後の取り組みへの課題も残るでしょう。今回の場合は、どちらかといえば小さい子が多かったことや、何らかの形でコミュニケーションのとりやすい子が比較的多かったこともあり、とりあえず、参加した子ども達にとっては、少なくとも、ある休日の、「いつもとは**ちよつと**違った時間」を過ごせたのではないかと思います。

親が会議参加や勉強のために、子どもをあずけるって、何だか**自責の念**がわいてきたりしますよね。誰のための勉強なのか・。って。自分の都合で子どもを振り回しているみたいで・。

また、「あずけても周りに迷惑かけるばかりで、他の人にとっても、うちの子にとっても

ダメダメ。」と敬遠してしまいがちですよね。どの子にとっても、意義のある、少なくとも家で漠然と過ごすよりは意義のある場にすることができればいいのになあ・・というのが、今回、また今後の保育への思いです。親にとっても、子どもにとっても「**いい時間**」であるために、これからの保育への**とりくみ**について、みんなでいろいろ考えていきませんか？ご意見聞かせてください。

## アンケートについて



先日、事務局から、紀北分会に関するアンケートが配られました。ほんの少しですが、回答が返ってきていますので、一端をご紹介します。

### 勉強会について

- ★年齢別に分けてほしい。
- ★専門家も巻き込んで、活発にやっていけたら。

### 親子のつどいについて

- ★戸外で父親なども参加したほうが良いと思う。
- ★もう少し自閉症の子どもに合った工夫が必要。でも班長がそれを背負うのも無理。

### バスツアーについて

- ★親子共楽しみにしているのでこれからも続けてほしい。
- ★近場で疲れなく、会の費用も少なく済むような所で。

### 県支部総会について

- ★参加者が少ない様ですので、もっと多く行って欲しい。
- ★一番会員数の多い紀北でやって欲しい。

### 対話集会について

- ★会員の出席が少なすぎる。動員をかけてもいい

かも。

### バサーについて

- ★お金の為にするには、負担がかかる気がする。他にも意味があつてやっているだろう、と参加はしているが。

### 会に対する思い、希望など

- ★自閉症の会は、営利目的の企業ではないので借金さえなければいいと思う。
- ★あまりお金のことは考えず、子供たちのことを一番にかんがえて活動してほしい。
- ★いつも恒例の事業（案）でそのまま総会を通つておしまい、だと、増々会に対して期待度が低くなる。班長だけに色々考えさせるというのも負担が大きいと考える（班長さんにも向き、不向きがある）。総会以外に会員の意見等をくみ上げるものを考えた方がいいのでは。それで、アンケートは良いのでは、と思つたが、おそろく返答も少ないのでは。

☆ もつともつと、いろんな意見や思いもあると思います。これからも、わたしたちの大切な子どもたちが、また、わたしたち自身が幸せであることができるように、いっしょに考え、支えあつていきたいですね。ご意見、ご希望、情報、悩み、近況・・何でもいいから、どんどん寄せてください。

イコラ編集局スタッフ大募集！！

## 第一回役員会から

6月16日（土）に、13年度最初の役員会がおこなわれました。

おもに、行事や事業についてのそれぞれの班の**役割分担**について話し合われました。各班の今年度の担当は、以下の通りに決定しました。

勉強会……………7班&3班  
県支部総会……………5班  
バス旅行……………2班  
家族のつどい……………4班&8班  
対話集会……………事務局  
バザー（つながり文化祭）……………1班&6班

よろしくおねがいします。

また、その話し合いの中で、いろいろなことが問題に上がりました。たとえば、県支部総会への参加を分会としてどのような形で援助できるか、アンケートの結果について…などなど。その中で、特に時間をさいて、ホットに話し合われたのが「**勉強会のあり方**」についてでした。

勉強会については、アンケートの回答の中に「年齢別にしてほしい」という要望がありました。子どもの年齢によって、それぞれの求めている情報や抱えている悩みが違う、ということがあります。しかし、一方で、**すでに経験した**方々からの情報やアドバイスも貴重なものです。また、勉強会の内容についても、より専門的な知識や情報を得たり交換したりする場を求める人もいれば、日々抱えている**悩みやしんどさ**を出し合えるような座談会ふうの場を求める人もいます。個人個人、勉強会に求めるものって違うけれど、できるかぎりどの人にとっても満足度の高い会にしていきたい、**でも**、それをどのような形でしていけばいいのか……ということが焦点となりました。

一つの試みとして、班長さんを中心にして、**班ごとの交流**をもってみる、ということになりました。班は、基本的に年齢や所属集団ごとに編成されています。班ごとに集まる機会をもち、その中でいろいろな思いを出し合ったり、勉強をしたりすることで、ある程度それぞれの求めるものに近い形にまとめていけるかもしれません。

そして、もちろん、これまで同様、会全体としての勉強会もおこなっていきます。勉強会担当の班を中心にして、一回一回内容や形を**模索しながら**、ということになりますが、いろいろな試みの中で、より良い勉強会を作っていきたいですね。今は、この会以外でも、勉強する機会はたくさんある時代ですが、「自閉症協会の勉強会」としての**役割はあるはずだ**と思います。ご意見、感想などお待ちしております。

編集後記：なんだかんだと、おいしいお茶と楽しいおしゃべりの中、なんとか第一報が仕上がりました。

次号では、皆さんにも原稿をお願いできれば、と思います。

Ecola（イコラ）が、どんどん広がっていくことを願って……♪♪♪

（編集スタッフ：👤津田弘美 👤藤原昌子 👤植野比呂美 👤辻野知津）